山口県　令和３年度研究報告書

研究成果（概要）

学力向上のための基盤として「読解力」に着目し、読解力を子供に育てたい資質・能力の一つとしてカリキュラムのグランドデザインに明確に位置付けることで、学校全体で組織的に育成する体制を整えることができた。さらに、読解力向上に向けて、ＩＣＴを活用した授業実践を積み重ねるとともに、読解力向上の素地となる読書活動を家庭や地域との連携・協働によって推進していくことができた。

１．研究課題と調査・取組内容

（１）具体的な研究課題

学びの基盤となる読解力などの言語能力や情報活用能力を育成するため、全学年において１人１台タブレット端末を用いた指導方法を開発するとともに、コミュニティ・スクールの仕組みを活用して学習を深める体制を導入し、その効果を検証する。

（２）研究課題に基づいて実施した調査・取組内容

＜県教育委員会＞

○　県独自の学力調査並びに全国学力・学習状況調査の問題及び質問紙を活用し、読解力などの言語能力や情報活用能力に関する結果を分析した上で、適切な学習課題や指導方法を検討し、取組実践校に対する指導助言を行った。

○　学校の授業研究会において、指導主事が指導・助言を行った。

○　取組実施校のある自治体以外の比較対象校を選定し、比較検証を行った。

○　調査研究推進のため、児童生徒支援加配教員（学習指導）を配置した。

○　学力向上推進協議会を設置し、取組実施校の実践について指導・助言を行うとともに教育効果について検証した。

＜市教育委員会＞

○　取組実施校における実践の進行管理及び指導・助言を行った。

○　比較対象校の状況把握を行い、読解力などの言語能力や情報活用能力の育成に向けた取組の効果について、リーディングスキルテスト等の読解力に関する調査を活用して、取組実施校との比較検証を行った。

＜取組実施校＞

【読解力向上に向けたカリキュラム・マネジメント】

○　読解力などの言語能力や情報活用能力を育成するプロジェクトチームを組織し、学校のグランドデザイン作成を軸に調査研究を推進した。

【ＩＣＴの活用】

○　全学年において、タブレット端末を用いて的確な情報を収集・選択・分析を行う系統的な学習課題の開発や指導方法の工夫・実践を行った。

○　質的なエビデンスとしてロイロノートを活用した振り返りを蓄積していき、振り返りから意味のある有効な事例やエピソードを取り上げ、授業改善に生かした。

○　音声、映像等による記録を活用し、学習内容を深めるコミュニケーション活動や学びの履歴を振り返る活動等の導入、実践を行った。

○　デジタル読解力の向上を図るため、読解力向上アプリケーションソフト等を活用した個別最適化された学習や家庭学習に取り組んだ。

【コミュニティ・スクールの仕組みの活用】

○　総合的な学習の時間において、地域人材や高校生等の支援のもと、タブレット端末でロイロノートを活用し、校外研修等で児童が収集・選択した情報や画像等を用いて、発表する取組を促進することで情報を発信する力を高めた。

○　地域人材による読み聞かせ等、読書への関心を高める取組を行った。（デジタル書籍の活用）

【効果検証】

○　リーディングスキルテスト等の読解力に関する調査を実施し、読解力などの言語能力や情報活用能力の現状を把握し、課題を共有するとともに読解力向上に向けた取組の方向性を検討した。

○　山口県が実施する山口県学力定着状況確認問題を活用し、正答率等から読解力に関する現状を分析し、リーディングスキルテストの結果との比較により、取組の効果について検証した。

○　ロイロノートを活用した振り返りを質的なエビデンスとして蓄積し、振り返りから意味のある有効な事例やエピソードを取り上げ、授業改善につなげることで読解力向上に向けた取組と成果の関係性を児童質問紙から検証した。

２．効果検証内容・結果

（１）効果検証のための指標

No.	検証のための指標	実施主体	具体的な検証内容
1	山口県学力定着状況確認問題の正答率	山口県教育委員会	資質・能力のうち特に「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力等」の状況を検証する。
2	山口県学力定着状況確認問題の児童への質問紙調査	山口県教育委員会	資質・能力のうち特に「学びに向かう力、人間性等」の状況を検証する。
3	国立情報学研究所リーディングスキルテストの正答率	国立情報学研究所	資質・能力のうち特に「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力等」の状況を検証する。
4	意味のある有効な事例やエピソード	取組実施校	振り返りの内容から授業改善につなげる取組と成果の関係性を児童への質問紙調査から検証する。

※山口県学力定着状況確認問題の結果分析については、山口大学教育学部教授から指導を得る。

（２）指標に関するデータの取得方法（時期、回数等）

	検証のための指標	データ取得の時期、回数等
1	山口県学力定着状況確認問題の正答率	令和３年１０月に１回、県内全小学校の児童に対して学力定着状況確認問題を実施した。
2	山口県学力定着状況確認問題の児童への質問紙調査	令和３年１０月に１回、県内全小学校の児童に対して質問紙調査を実施した。

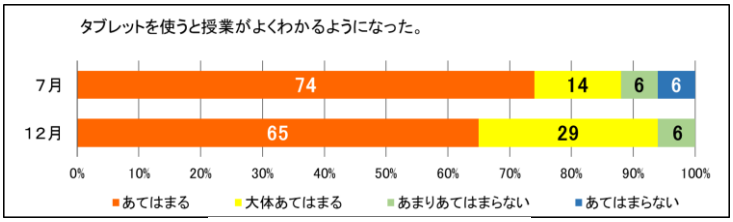
3	国立情報学研究所リーディングスキルテストの正答率	令和３年７月に１回、取組実施校と防府市の比較対象校児童に対して、リーディングスキルテストを実施した。
4	山口県学力定着状況確認問題の正答率	令和４年１０月に１回、県内全小学校の児童に対して学力定着状況確認問題を実施する。
5	山口県学力定着状況確認問題の児童への質問紙調査	令和４年１０月に１回、県内全小学校の児童に対して質問紙調査を実施する。
6	国立情報学研究所リーディングスキルテストの正答率	令和４年１０月に１回、取組実施校と防府市の比較対象校児童に対して、リーディングスキルテストを実施する。
7	意味のある有効な事例やエピソード	毎時間の授業と単元の締めくくりにおいて振り返りを実施した。

（３）検証の際に比較の対象とする学校等

取組実施校	比較対象校	比較対象とした理由
防府市立華浦小学校	防府市内小学校１校 防府市外小学校２校	学校規模や学力の状況が類似しているため。 取組を実践する自治体と、規模、経済的背景等が類似している市において、学校規模や学力の状況が類似しているため。
計　１　校	計　３　校	

３．考察（本研究が学力向上のために有効な取組であると言えるか）

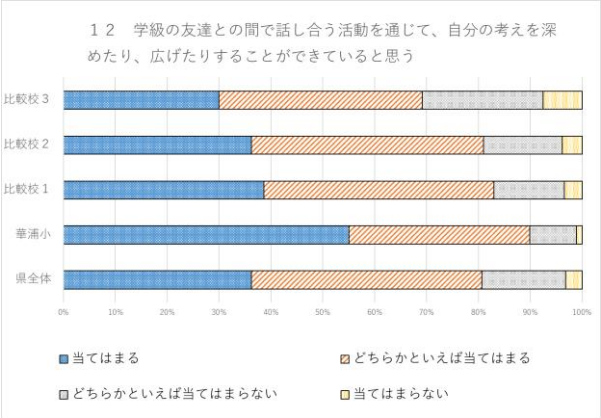
学力向上の観点から子どもに育てたい資質・能力を明確に示したカリキュラム・マネジメントを実施することは、学力向上に向けた組織的な取組を推進することになると考える。また、読解力向上に向けて、ＩＣＴを活用した授業づくりに注力したことは、児童の学校評価アンケートの結果からも「授業がよくわかるようになった」と肯定的に受け止められている。さらに、コミュニティ・スクールの仕組みを活用することで、学力向上に向けた本校の課題と課題解決のための取組の方向性について、家庭・地域と共有することができた。



学校評価アンケート［児童］

防府市教育委員会の分析により、リーディングスキルテストと県独自の学力定着状況確認問題の結果を重ね合わせ、双方の結果に相関関係が見られたことと、子どもたち一人ひとりの伸びや落ち込みを確認できたことも成果である。

県独自の学力定着状況確認問題において読解力を意識した問題を作成し、読解力に関する現状把握ができたことと、基礎的読解力を測定・診断するリーディングスキルテストで読解に必要なプロセスのどこに課題があるのかが明確になったことにより、学力向上に向けた具体的な手立てを基にした授業改善につなげることができた。



10 月確認問題児童質問紙調査

子どもたちの声を反映させたグランドデザインを作成し、学校・家庭・地域で共有したことにより、読解力向上に向けて全員が足並みを揃

えて実践していく土台ができた。その土台は子どもたちにもよい影響を与えていることが 10 月に実施した県独自の質問紙結果から読み取れる。例えば、「授業では、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」、「授業で自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表することができている」や「国語が好き」という児童の割合が高いことなどである。

研究１年目は、学校・家庭・地域・子どもたちに対して、学力向上の基盤となる読解力を育成するための土台を整えることができたことが最大の成果と言える。

４．課題と今後の研究の方向

リーディングスキルテストの結果分析によると、児童には、「照応解決」「指示語の指す事柄を的確に捉え、且つ条件に合わせて表現すること」「推論」「想像力を働かせること」に課題があることが分かった。今後、タブレット端末を使った対話的活動・振り返り活動を充実し、指示語の指す事柄を探す力や自分の意見と他者の意見を比較して自分の意見に肉付けしたりすることができる力を付けていきたい。また、リーディングスキルテストの結果から明らかになった課題を克服するために、ＩＣＴを活用した基礎的読解力向上のツールを大学教授とともに開発し、授業で実践することで効果を検証していく予定である。

子どもたち自身が読解力をどう捉え、その重要性や必要性をどのように認識しているか、その認識は、どのような教育活動で強化されたり、変容したりしているのか等の子ども自身のメタ認知が不足しているので、振り返りの蓄積だけでなく、子どもたち自身が読解力の定着度を達成度で示すことができるようなアンケートを節目ごとに実施するなどして、エビデンスを明確にする必要性を感じている。

学力向上推進協議会の委員である教授方は、ＩＣＴやコミュニティ・スクールへの造詣が深いので、校内研修等で学校の先生方と直接やり取りする場面を設け、先生方の取組をより一層支援していけるよう、教育委員会としてバックアップしていきたいと考えている。

家庭や地域を巻き込んだ読書活動を読解力の向上につなげるためには、単に読書量を増やすのではなく、適切な読み方や読んだ内容の活用の仕方についての指導が必要であると考えている。文部科学省の中間報告会において、委員の先生から紹介していただいた「家でおすすめの本をタブレット端末で写真に撮って学校で紹介する」という取組は、読解力向上に効果があると思われるので、インプットとアウトプットの両面を意識した取組を取り入れていきたい。

また、委員の先生方から取組の３本柱の方向性を関係付け、構造的な検証を心掛けるとよいという指導・助言をいただいたので、取組の３本柱と読解力の関係性を明確にし、令和の時代に必要な力としての読解力を捉えた研究のデザインについて関係者で改めて協議し、子どもたちに着実に読解力を育む研究になるように尽力したい。そして、この取組が研究校以外の子どもたちにとっても有効なものとなるように意識して２年目の研究を進めていきたい。

５．今年度の研究経過

月	内容
５月	学力向上推進協議会（第１回）開催 文部科学省による連絡協議会 防府市立華浦小学校において取組開始
７月	取組実施校及び比較対象校の児童へのリーディングスキルテスト実施 学校運営協議会における学力向上に関する熟議 取組実施校における学校・地域連携カリキュラムのグランドデザイン検討①

	取組実施校の校内研修においてロイロノートを活用した授業づくり研修 高校生によるサマースクールの実施
８月	取組実施校の校内研修において読解力の現状と課題の共通理解① 学力向上推進協議会（第２回）開催
１０月	山口県学力定着状況確認問題実施 児童への質問紙調査実施 取組の効果検証
１１月	文部科学省による実地調査 授業研究会 学校運営協議会における学力向上に関する熟議
１２月	取組実施校の校内研修において読解力の現状と課題の共通理解② 学力向上推進協議会（第３回）開催
１月	取組実施校における学校・地域連携カリキュラムのグランドデザイン検討②
２月	学力向上推進協議会（第４回）開催 授業研究会 文部科学省による令和３年度報告会

６．研究関係者

（１）学力向上推進協議会構成メンバー

所　属	氏　名
国立大学法人山口大学	鷹岡　　亮
国立大学法人山口大学	静屋　　智
防府市立華浦小学校	美作　健悟
防府市立華浦小学校	岸本　淑恵
防府市立華浦小学校	中村 由香里
防府市教育委員会	藤井　　学
防府市教育委員会	中原　育代
山口県教育委員会	徳永　竜治
山口県教育委員会	中原　恵子
山口県教育委員会	西村　光博
山口県教育委員会	大田　　誠